

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県平成22年第52週、平成23年第1週の発生動向

【52週】

定点からの報告総数は 1,439 人（定点あたり 41.1）で前週比 74%と減少した。この減少は、年末年始等で定点医療機関が休診だったためと思われる。

52週に増加した主な疾患は咽頭結膜熱であった。

【1週】

定点からの報告総数は 1,763 人（定点あたり 46.7）で前週比 113%と増加した。

今週増加した疾患はインフルエンザと水痘であった。

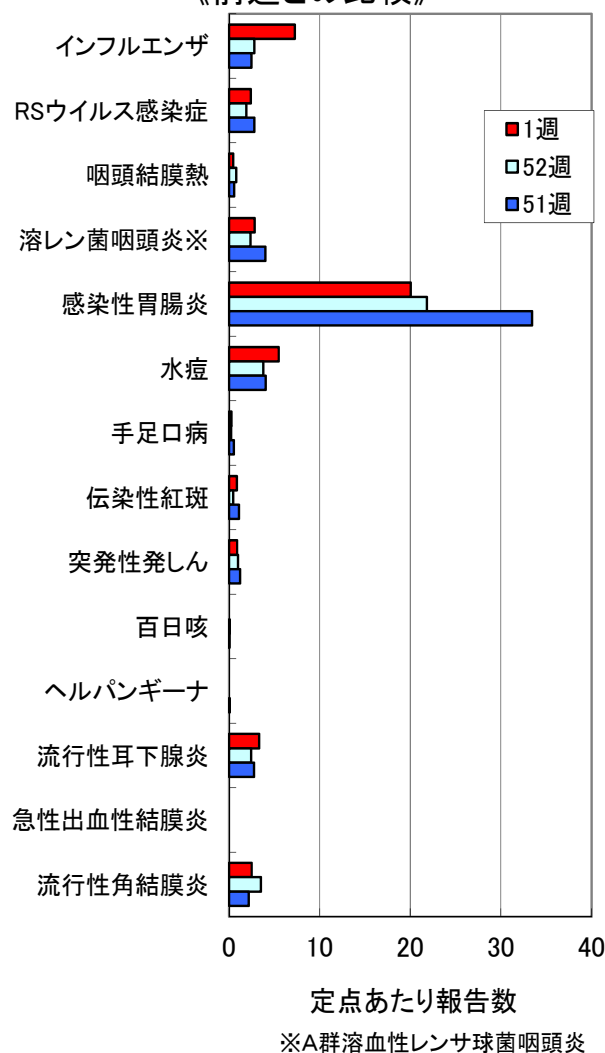
インフルエンザの報告数は 428 人（7.3）で前週比 261%と増加した。都城（16.9）、延岡（10.4）、小林（7.8）保健所からの報告が多く、年齢別では 5 歳以下が全体の 26%、6 歳から 9 歳が 14%、10 歳から 14 歳が 10%、15 歳から 19 歳が 8%、20 歳代から 50 歳代が 41%、60 歳以上が 1%を占めた。

水痘の報告数は 198 人（5.5）で前週比 146%と増加した。都城（9.7）、宮崎市（7.8）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 1 歳から 4 歳で全体の 8 割を占めた。

マイコプラズマ肺炎 1 人が高鍋保健所から報告された。患者は 9 歳の女兒で原因菌は *Mycoplasma pneumoniae*。

クラミジア肺炎 1 人が高鍋保健所から報告された。患者は 9 歳の女兒で原因菌は *Chlamydia pneumoniae*。

《前週との比較》



□ 感染性胃腸炎の集団発生（平成 22 年 12 月 27 日～平成 23 年 1 月 2 日）

保健所名	施設の種別	件数
中央	老人福祉関係施設	1
日南	老人福祉関係施設	1
高鍋	老人福祉関係施設	2

□ 感染性胃腸炎の集団発生（平成 23 年 1 月 3 日～平成 23 年 1 月 9 日）

感染性胃腸炎の集団発生はありませんでした。

□ 流行警報開始基準値を超えた疾患

【52 週】

	流行警報	定点あたり報告数		年 齢 分 布
	開始基準値	宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
咽頭結膜熱	3	0.81	日南(4.0)	6ヶ月～2歳で全体の約7割を占めた。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	2.4	延岡(11.8)	2歳～5歳で全体の約6割を占めた。
感染性胃腸炎	20	21.8	小林(45.3)、日南(34.7)、都城(22.0)、中央(20.0)	1歳～3歳で全体の約半数を占めた。
伝染性紅斑	2	0.47	中央(2.0)	4歳～8歳で全体の約6割を占めた。
流行性耳下腺炎	6	2.4	日南(11.7)	2歳～6歳で全体の約7割を占めた。

【1 週】

	流行警報	定点あたり報告数		年 齢 分 布
	開始基準値	宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	2.8	延岡(9.8)	4歳～6歳で全体の約半数を占めた。
感染性胃腸炎	20	20.1	小林(45.0)、日南(29.7)、宮崎市(23.0)	6ヶ月～2歳で全体の約4割を占めた。
水 痘	7	5.5	都城(9.7)、宮崎市(7.8)	1歳～4歳で全体の約8割を占めた。
伝染性紅斑	2	0.86	高千穂・中央(各3.0)	5歳～6歳で全体の約4割を占めた。 すべて10歳未満の報告であった。
流行性耳下腺炎	6	3.3	中央(10.0)、日南(6.0)	2歳～6歳で全体の約7割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

【52 週】

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 2 例が宮崎市、都城（各 1 例）保健所から報告された。
《宮崎市保健所》・80 歳代の男性で肺結核。咳、痰がみられた。
《都城保健所》・80 歳代の男性で肺結核。咳、痰、発熱、呼吸困難がみられた。
- 3 類感染症 : 報告なし。
- 4 類感染症 : つつが虫病 1 例が宮崎市保健所から報告された。60 歳代の男性で発熱、
発疹がみられた。IgM 抗体検出。
- 5 類感染症 : 報告なし。

【1 週】

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 2 例が都城・延岡（各 1 例）保健所から報告された。
《都城保健所》・80 歳代の男性で肺結核。痰がみられた。
《延岡保健所》・80 歳代の女性で肺結核。咳、痰、発熱がみられた。。
- 3 類感染症 : 報告なし。
- 4 類感染症 : つつが虫病 1 例が宮崎市保健所から報告された。10 歳代の男子で発熱、
刺し口、リンパ節腫脹、発疹がみられた。
- 5 類感染症 : 報告なし。

■ 病原体情報（衛生環境研究所 微生物部）

□ ウイルス（平成 22 年 12 月 21 日～平成 23 年 1 月 11 日までに分離同定）

同定ウイルス名	年齢	性	採取日		材料	同定日
ノロウイルスGⅡ型	10	男	12.21	ショック、感染性胃腸炎、嘔吐	便	12.22
ノロウイルスGⅡ型	5	男	12.21	下痢（ノロウイルス疑い）、38℃	便	12.22
ノロウイルスGⅡ型	3	男	12.22	感染性胃腸炎、38.1℃、嘔気、嘔吐	便	12.22
ノロウイルスGⅡ型	1	女	12.23	腸炎、下痢、嘔気、嘔吐、胃腸炎関連けいれん	便	12.27
ノロウイルスGⅡ型	3	男	12.24	感染性胃腸炎、下痢、嘔気、嘔吐	便	12.28
インフルエンザ ⁺ AH1pdm型	21	男	12.30	インフルエンザ、38.5℃、関節痛	鼻汁	1.6
インフルエンザ ⁺ AH1pdm型	19	女	12.30	インフルエンザ、40.1℃、関節痛	鼻汁	1.6
インフルエンザ ⁺ AH1pdm型	22	男	12.29	インフルエンザ、40.4℃、熱性痙攣、咳、意識障害、 脳性まひ、てんかん	鼻汁	1.6
インフルエンザ ⁺ AH1pdm型	7	男	12.29	インフルエンザ、39.1℃、咳	鼻汁	1.6
インフルエンザ ⁺ AH1pdm型	8	男	1.4	インフルエンザ、38.4℃、頭痛、嘔吐	鼻汁	1.6
インフルエンザ ⁺ AH1pdm型	6	女	1.4	インフルエンザ、39.1℃、鼻水	鼻汁	1.6
インフルエンザAH3型	1	女	1.5	インフルエンザ、39℃、咳、痰、鼻水	鼻腔ぬぐい液	1.6
インフルエンザ ⁺ AH1pdm型	1	女	1.7	インフルエンザ、38.5℃、上気道炎	咽頭ぬぐい液	1.11
インフルエンザ ⁺ AH1pdm型	40	男	1.5	インフルエンザ、38.5℃、関節痛、悪寒、痰、喘鳴	鼻汁	1.11
インフルエンザAH3型	48	男	1.7	インフルエンザ、38.0℃、筋肉痛、上気道炎、咽頭 痛、咳、嘔吐、嘔気	鼻汁	1.11

○胃腸炎の児童と幼児、計5例からノロウイルスGⅡ型が検出された。感染性胃腸炎の定点あたり報告数は減少してきてはいるものの、依然として警報レベルを上回っている。

○インフルエンザの患者からインフルエンザAH1pdm（新型）とインフルエンザAH3（A香港型）が検出された。12月から新型の検出数がA香港型を上回っている。

□ 細菌（平成 22 年 12 月 21 日～平成 23 年 1 月 11 日までに分離同定）

同 定 細 菌 名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状 等	分離材料	分離同定日
<i>Bordetella pertussis</i> （百日咳菌）	0～4	男	11.30	気管支炎、咳	咽頭ぬぐい液	12.3
<i>Bordetella pertussis</i> （百日咳菌）	10代前半	男	12.3	咳、鼻汁、咽頭発赤、気管支炎	鼻汁	12.13
<i>Salmonella</i> Miyazaki (O9:l,z13:h,7)	0～4	男	12.5	発熱(38.1℃)、下痢、嘔気、嘔吐	便	12.16
<i>Salmonella</i> Braenderup (O7:e,h:e,n,z15)	0～4	男	12.7	発熱(38.4℃)、鼻汁、下痢、嘔吐	便	12.18
<i>Bordetella pertussis</i> （百日咳菌）	10代前半	女	12.1	咳	咽頭ぬぐい液、血液	12.24
<i>Bordetella pertussis</i> （百日咳菌）	10代前半	男	12.17	スタックカート(+)、レプリーゼ	咽頭ぬぐい液、血液	12.24
<i>Bordetella pertussis</i> （百日咳菌）	10代前半	男	12.21	スタックカート(+)、レプリーゼ(+)	鼻汁	12.29
<i>Bordetella pertussis</i> （百日咳菌）	10代前半	女	12.21	スタックカート(+)、レプリーゼ(+)	鼻汁	12.29
<i>Bordetella pertussis</i> （百日咳菌）	10代前半	男	12.21	スタックカート(+)、レプリーゼ(+)	鼻汁	12.29
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m:-)	0～4	男	12.25		便	1.6
<i>Bordetella pertussis</i> （百日咳菌）	10代前半	男	12.27	スタックカート(+)、レプリーゼ(+)	咽頭ぬぐい液	1.6
<i>Bordetella pertussis</i> （百日咳菌）	10代前半	男	1.4	スタックカート(+)、ウーブ(-)	鼻汁	1.10
<i>Salmonella</i> Schwarzengrund (O4:d:1,7)	20代後半	女	1.4			1.10

○県北で10代前半の患者から百日咳菌が検出されている。衛生環境研究所では培養に加えPCR法およびLamp法を実施している。その中でもLamp法は感度と特異性に優れているが、検査キットが市販されていないことに加え、臨床材料から遺伝子を抽出する作業が必要なため、通常の検査施設では実施が難しい。なお、これまでの成績ではLamp法での検出率を100%とした場合、PCR法が70%程度、培養で50%程度の検出率となっている。

■ 全国 平成 22 年第 51 週、52 週の発生動向

【51 週】

定点医療機関あたりの患者報告総数は 29.3 で、前週比 94%と減少した。51 週に増加した主な疾患はインフルエンザで、減少した主な疾患はとヘルパンギーナと感染性胃腸炎であった。

【52 週】

定点医療機関あたりの患者報告総数は 18.4 で、前週比 63%と減少した。52 週に増加した主な疾患はインフルエンザで、減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎であった。

インフルエンザの報告数は 10,851 人（2.3）で前週比 112%と増加した。地域別では沖縄県（9.2）、佐賀県（8.2）、長崎県（6.3）からの報告が多かった。年齢別では5歳以下が全体の23%、6歳から9歳が15%、10歳から14歳が10%、15歳から19歳が6%、20歳代から50歳代が43%、60歳以上が3%を占めた。

□ 全数把握対象疾患

【51 週】

- 1 類感染症 : 報告なし
- 2 類感染症 : 結核 362 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 5 例、腸管出血性大腸菌感染症 12 例、腸チフス 1 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 2 例、A 型肝炎 2 例、オウム病 1 例、つつが虫病 20 例、デング熱 2 例、日本紅斑熱 1 例、マラリア 1 例、レジオネラ症 15 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 10 例、ウイルス性肝炎 1 例、急性脳炎 2 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 38 例、ジアルジア症 2 例、梅毒 9 例、破傷風 3 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 3 例、麻しん 9 例

【52 週】

- 1 類感染症 : 報告なし
- 2 類感染症 : 結核 243 例、
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 3 例、腸管出血性大腸菌感染症 9 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 1 例、つつが虫病 6 例、デング熱 2 例、レジオネラ症 6 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 8 例、ウイルス性肝炎 3 例、急性脳炎 2 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 3 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 12 例、梅毒 3 例、破傷風 1 例、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 1 例、風疹 2 例、麻しん 6 例